

2022 年度前・後期 授業改善アンケート集計結果に対する意見
—経済学部—

学部長 増川 純一

2022 年度授業は、3 年ぶりにほぼすべての授業科目が対面で実施された。
アンケートも、通常通り対面で実施されたため回答率も Web での実施の 2 割程度に比べ、6 割程度に戻っている。

ここでは、コロナ禍で遠隔授業中心時期を経て、コロナ前と現時点でどのような変化があったのか、2019 年度前後期から 2022 年度前後期にかけて実施されたアンケート結果の経時的変化に注目してコメントしたい。ただし、アンケート項目が年度によって差があるので、すべての年度に以下の共通の項目に注目したい。

- A. この授業の内容を理解するために努力した
- B. 教員の指示は明瞭で聞き取りやすかった
- C. この授業のレベルはあなたにとって適切であった
- D. シラバスと授業の内容が一致していた
- E. この分野への興味・関心が引き起こされた
- F. この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった
- G. 1 回の授業にあたり、授業時間と事前・事後学習のために費やした時間

結果は以下の通りである。

大学全体	A	B	C	D	E	F	G
2022年度前後期	4.22	4.39	4.16	4.52	4.18	4.32	2.9
2021年度後期	4.43	4.37	4.15	4.41	4.18	4.33	2.52
2021年度前期	4.44	4.27	4.09	4.34	4.16	4.27	2.57
2020年度後期	4.37	4.23	4.12	4.28	4.15	4.23	2.58
2020年度前期	4.29	3.98	3.89	4.1	3.93	3.98	2.48
2019年度前後期	3.88	4.21	4.02	4.27	4.09	4.14	2.4

経済学部	A	B	C	D	E	F	G
2022年度前後期	4.19	4.31	3.98	4.47	4.03	4.2	2.99
2021年度後期	4.44	4.33	4.08	4.38	4.11	4.24	2.53
2021年度前期	4.44	4.2	4.01	4.32	4.08	4.18	2.57
2020年度後期	4.4	4.17	4.03	4.25	4.06	4.17	2.66
2020年度前期	4.29	3.88	3.8	4.03	3.79	3.88	2.52
2019年度前後期	3.9	4.1	3.88	4.17	3.94	4.01	2.38

大学全体でも経済学部においても、設問 A～G のほとんどすべての項目で、2020 年度前期の教員側学生側が遠隔授業に不慣れだった時期を除き、遠隔授業期間中も対面授業に戻ってからも、継続的なスコアの上昇が見られる。

設問 A(この授業の内容を理解するために努力した)、B(教員の指示は明瞭で聞き取りやすかった)に関してのスコアの上昇は、教員側では丁寧に伝えること、学生側では内容を理解する努力の大事さについてコロナ期間中に学んでいったということではないかと思える。設問 G の数値の上昇からはわずかではあるが学習時間も増えていることがわかる。

また全体としての評価である設問 E「この分野への興味・関心が引き起こされた」が 2019 年度前後期 4.09(3.94)(大学全体(経済学部))、2022 年度前後期 4.18(4.03)と上昇し、設問 F「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」も 2019 年度前後期 4.14(4.01)、2022 年度前後期 4.32(4.2)と上昇が見られる。

遠隔授業の事初めであった 2020 年度と比しても 2021 年度は満足度の高い授業が行われたといえる。それは、学生や科目担当教員双方が遠隔授業の経験を積んだことによる技術と意識の向上に伴ってもたらされたものと思われる。ただ、項目 A(この授業の内容を理解するために努力した)に関して遠隔授業中の期間に比べ 2022 年度前後期の値が少し下がっているのが少し気になる。授業内容の吟味とともに、学生に対しては、内容理解のための努力を今後も促していきたい。

以上